

【きつとね！ 米沢のりひさ まちづくり報告会】

2020.9.2 ホテル日航ノースランド帯広

～市長講演要旨～

皆さん、こんばんは。

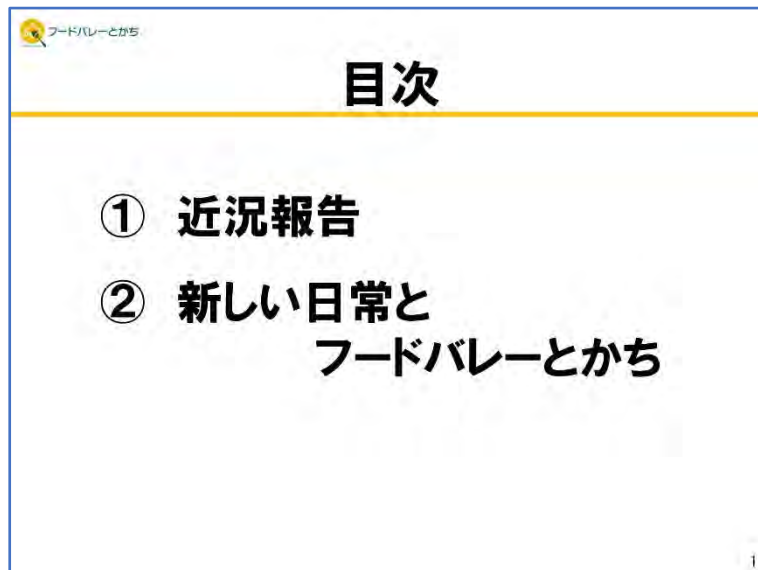
本日は、大変お忙しい中、報告会にお越しいただきまして、心からお礼を申し上げます。

本来であれば、入口で皆様をお迎えするところでしたが、感染症対策で、終了後のお見送りもできないことを冒頭お詫び申し上げます。

前回、このような形で皆様にお会いし、近況報告させていただいたのが、2月25日なので、半年が過ぎました。

この間、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、誰もが経験したことのない時間、そして空間、そこに身を置くことを余儀なくされた半年でした。

英語では、「ニューノーマル」という言葉を使うようですが、日本語では、「新常态」や「新しい日常」と言われ、コロナ以前とは全く違った閉塞感、不自由さがいっぱいの毎日が続いています。



目次	
①	近況報告
②	新しい日常と フードバレーとまち

本日は、初めに近況報告として、2月末から現在までの市政のトピックスを紹介します。

その次に「新しい日常とフードバレーとまち」と題して、コロナ渦での暮らし、まちづくりを考えるときに感じていることなどについて、先日、高校生の皆さんを相手に、1時間ほど話をさせていただきましたが、そのときに使った資料と高校生のコメントなどを紹介しながら、これからの新しい日常の中で、「大切に

しなければならないものは何なのか。」という話をしたいと思います。

【近況報告】

「コロナ対応の半年間」

2月の末に道内で感染者が急増し、学校の一斉休校、北海道独自の緊急事態宣言が出された以降、帯広市でも新型コロナウイルスへの対応を中心とした毎日が続きました。

帯広市では2月26日に対策本部を設置し、その後は、記者会見や広報紙、ホームページ、SNSなどを通じて、積極的に市の活動を発信してきました。

「コロナ対応」の半年間



ご覧いただいている写真にもありますが、国、北海道の施策のほかに、市議会、各種団体の方々から要望をいただきました。また、現場の声を引き上げながら、7回にわたり、コロナ対策の補正予算を組んだところです。臨時議会が5月に2回、7月に1回、定例会が3月と6月にあり、議会で議決をいただき、速やかに執行してまいりました。

写真の右下のように、大勢の皆様からマスクや消毒液の寄付をいただきました。今は、手に入る状況になっていますが、この間、大きくひっ迫し、困っていた中での寄付であり、大変ありがたく感じています。

コロナに対して臨んだスタンスですが、今回は、間違いなく非常時です。大体非常時というのは短期間で終わりますが、今回は多くの方が長丁場になると言いました。日本の歴史を見ても、緊急事態が長丁場になるのは、苦手です。

そのような中で、どうしたら良いかを考えてきました。

感染症対策は、国が旗を振り、感染症法に則った手続きが定められています。その中で見ると、国、道（県）、そして市町村という形でシステムが組み、市町村は、サブシステムになっています。

そのサブシステムがメインのような活動をする、闘いは混乱します。ですから、私の仕事は、国が出すメッセージ、知事が出すメッセージを受け、理解し、どのように対応すれば良いかを真剣に考えること、そして、その主旨から外れない中で、地方まで目が届かない部分をどう補っていくか、これに尽きると思いました。

そういう面では、市の分限は何なのか、どのようなときでも、我々がやり続けられることは何なのか、それを常に考え、行動してきた6か月です。

その中で、励まし、激励、叱責など色々な言葉をいただきました。ただ、ぶれずにいきたい。旗振り役がぶれたら終わってしまうと思いながら進んできました。

今日ここにお越しの皆様をはじめ、多くの方々に温かい言葉をかけていただき、支えられ、何とか大きなトラブルなく、ここまで来ているかなと感じているところです。

「在任10年・3期目折り返し」(4/21～)

4月21日に在任10年、3期目の折り返しを迎えました。

今日も町村長の皆さんや、市町村議会の方々にお越しいただいていますが、私は、十勝の皆さんと一緒に歩んできた10年だと思っています。「フードバレーとかち」という旗を皆さんにもご了解いただき、掲げて進んでまいりました。

今は、「本当に10年かかるんだ。」というのが正直な気持ちで、10年を振り返ってみても、本当にありがたいことだと思っています。

在任10年・3期目折り返し（4/21～）



私の気持ちの中のことを一言いいますと、ポピュリズム、迎合主義になってはいけないといつも思っていました。

この写真にもありますが、公約という言葉があります。市長選挙に出たときに、これをやりますと言って市長になっていきますので、公約が基本です。ですからどこまで行ってもこの公約をいただいた4年の中で、いかに達成していくかということ。契約でありますので、そのよう

な気持ちで仕事をしてまいりました。

「北斗との包括連携協定締結」(6/9)

6月9日という日付ですが、5月末に緊急事態宣言が解除され、対外的な用務も少しずつ戻ってきた頃でした。



このスライドは、社会医療法人の北斗さんと連携したまちづくりに取り組む協定を結んだものです。北斗さんの「福祉村ガーデン星の庭」という一帯がありますが、そこで高齢者の健康維持のほか、コミュニティの活性化、緑づくりなど、色々な取り組みを進めようというユニークな内容です。

これまでの町内会ということに加えて、新しい切り口でのコミュニティを複層的に作ってい

きたいと思っておりますが、今回の北斗さんとの連携は、その大きな足掛かりになるのではないかと考えています。

「観光振興に係る新たな財源に関する検討委員会」(6/11)

観光を振興するには、財源確保が必要です。

これに向けて6月から市民の皆さんの意見をお聞きし、検討を始めています。検討委員会で10月頃までには結論を出す予定で、その後は、条例の提案などを含めまして、北海道、他の自治体の動向を見ながら、決めてまいりたいと思っています。

観光振興に係る新たな財源に関する検討委員会（6/11）



「ウポポイ開業記念式典」(7/11)

民族共生象徴空間ウポポイの開業記念式典に出席してまいりました。

4月オープンの予定でしたが、延期になり、私にとりまして5ヵ月振りの管外への出張でした。

「ウポポイ」開業記念式典（7/11）



私も小さいときから、学校でアイヌの子供たちと一緒に机を並べた経験がありますが、今回ウポポイの開業式典に出て、色々な物を見て帰ってきたときに、改めてアイヌ文化のすばらしさ、それから我々の知らないことがまだ多くあって、これからもっと勉強しなくてはいけないと感じたところであります。

「日高山脈襟裳国立公園」国立公園化に向けて（7/21）

皆さんご存じの日高山脈ですが、日勝峠からえりも岬までの一帯、ここは今、国立公園になっています。

ここの国立公園化に向けて国の作業が進んでいます。早ければ令和3年度の末に、国立公園に指定されるべく、動いているところです。

ここが国立公園になりますと、十勝からは、今、大雪、阿寒・摩周の二つの国立公園にアクセスできますが、これに3つ目の国立公園が帯広空港から2時間以内に到着できるという新しい状況が生まれます。

「日高山脈襟裳国定公園」国立公園化に向けて（7/21）



8

現在、十勝一体となり、町村長の皆様にも動いていただいて、早期に実現できるよう努めています。そして、名前に何とか「十勝」と入れたく、皆さんのお力をお借りしながら、進めているところです。

この写真は、7月21日に公明党の佐藤英道衆議院議員が視察に来られ、我々の国立公園化への取り組みや十勝におけるアウトドアビジネス・観光について、ご説明申し上げました。「し

っかり応援するよ。」との話をいただき、心強く感じているところです。

早期の指定に向けてこれからもしっかりと取り組んでまいります。

「TVh 「けいナビ」フードバレー特集」（7/25、8/1）

7月25日と8月1日に、テレビ北海道で毎週土曜日に放送されている「けいなび」という番組がありますが、「フードバレーとかちの10年」という内容で、2週にわたって特集をしていただきました。



写真は、番組で放送されたいくつかのシーンですが、「フードバレーとかち」のこと、十勝農業の今、十勝の若手のチャレンジャー達などの紹介がございました。放送内容は、ポジティブなもので、大変ありがたく感じたところであります。

「帯広畜産大学「とち学」講義」（8/5）

帯広畜産大学に「十勝学」という講座があり、昨年も行いましたが、今年も8月5日に、その一コマ90分間をいただき、お話をさせていただきました。今年は、リモートでの講義になり、学生たちの顔が見えない中で90分話すのは、中々大変でした。

畜大の学生に何を期待するかという質問がありましたので、大きく3つお願いしました。1つ目は、どんな未来を創りたいか考える人になってほしい。

帯広畜産大学「とち学」講義（8/5）



10

2つ目は、食料、水、エネルギー、環境、世界が直面している4つの課題がありますが、この課題に関する議論をリードしていただける人材を目指してほしい。

3つ目は、今ここでなければ、できないことを精一杯やれる人間になってほしい。この3つをお願いしました。

終了後に100人ほどの学生さんから感想を送っていただきましたが、非常にポジティブな反応をいただきました。彼らが

素晴らしい未来、素晴らしい幸せを手にしてほしいと改めて感じたところです。

「竹本大臣との意見交換会」（8/26）

今、札幌市を中心に帯広市も参画して、「札幌・北海道スタートアップエコシステム」という動きをしています。起業家を育てるためのシステムをしっかりと作るということであります。今年7月に国のスタートアップエコシステム推進拠点都市の選定があり、そこに札幌と一緒に出しました。その結果、採択され、その政策を所管する竹本内閣担当特命大臣がお越しになりました。

竹本大臣との意見交換会（8/26）



11

この写真の真ん中の方で、私と札幌の秋元市長で挟んで座っております。この写真に写っている十勝と札幌で、新しく起業をして、今活躍している社長たちが説明し、意見交換をしたところです。

この後、大臣を囲んで、道経連の真弓北電会長、北海道経済同友会の北洋銀行の石井会長、北海道商工会連合会の岩田会長、それに秋元、米沢の二人の市長で昼食を挟んで1時間ほど意見

交換会をしましたが、話の半分は十勝のことでした。十勝の存在感が相当上がっていると思いましたし、農業、宇宙、この分野における十勝の発展には、国も注目してくれていると、改めて感じることができました。

「ザ・ロイヤルエクスプレス」歓迎（8/28）

8月28日、皆さん、新聞等でご覧になったと思いますが、「ザ・ロイヤルエクスプレス」

がやってきて、歓迎セレモニーを行いました。

「ザ・ロイヤルエクスプレス」歓迎（8/28）



4日間で札幌、十勝、釧路、知床、旭川そして札幌に戻るとい
うコースのツアーですが、応募
枠の150名に対し、応募数が
1,232名で、何と8倍です。
大人気だったということで、来
年以降も実施いただけると聞い
ており、大変楽しみに思ってい
ます。

「帯広農業高校野球部甲子園出場報告」（8/28）

帯農の野球部が甲子園出場の報告に来てくれました。有城議長と一緒に話を聞きました。

帯広農業高校野球部 甲子園出場報告（8/28）



有城議長は母校でもあり、
大変喜んでおられました。

甲子園の夏空の下で、笑顔で
ハツラツとプレーしていたのを
皆さんも知っていると思います。

白樺高校も素晴らしい試合を
してくれたと思っています。

共に得難い経験をした彼らの
未来に幸あれと願っています。

フードバレーとかち

② 新しい日常と フードバレーとかち

新北海道スタイル
フードバレーとかち

ここから
「新しい日常とフードバレーとかち」の話
に入ります。

「市民トーク～大切なもの～」(8/8)

8月8日に、よつ葉アリーナの会議室を会場にして、「市民トーク」を開催しました。

市民トーク「大切なもの」(8/8)



15

タイトルは、「大切なもの」で、集まっていたのは、学生ボランティア団体の CAN-PASS、南商の生徒会の皆さんで、コロナの時代において、「本当に大切なものは何だろう。」ということを一時間ほど、議論しました。

CAN-PASS は、マスクが足りなかったときに、マスクの橋渡しプロジェクトを始めてくれた高校生たちです。

実のある1時間でした。目をキラキラさせた学生たちから、色んな意見を聞くことができました。

その中で、今回のコロナの経験から、これまで当たり前だと思っていたもの、気が付かなかったもの、あえて見てこなかったもの、そういうものの中に大切なものがいっぱいあると感じられた。そんな話もいただきました。

大切なものは 目に見えない



Le Petit Prince® The Little Prince® (C)Antoine de Saint-Exupéry Estate. Licensed by LPPBIZ.

16

そのときに、私が一番先に出したスライドです。

この絵は、皆さんご存じと思いますが、サン=テグジュペリという作家の星の王子様です。この星の王子様の中の印象的な言葉に、「本当に大切なものは、目に見えない。」があります。

勿論、全てではありませんが、家族、命、思いやり、人との繋がり、目に見えない大切なものがいっぱいあります。

ただ、今回我々が恐れている、今も恐れなければいけないコロナも目には見えません。目に見えないものは、大切なものもありますが、我々に恐怖を惹起させるものもあります。改めて、そのような中で大切なものは何だ、こういう話を皆さんと一緒にしました。

もう一つ、スライドを出しました。

これは、我々シーザーと言っていますが、ユリウス・カエサルです。

彼は、人は現実の全てが見える訳ではない。多くの人は見たいと思う現実しか見えないと、このように言っています。



人間は
見たいものしか見ない

ユリウス・カエサル

17

先程の言葉と裏腹のように感じるかもしれませんが、目から入ってくる情報だけを信じてはダメ。これも学生たちに話しました。

学生たちに、コロナで日常生活が変化したことは何だったと聞いて教えてくれたのが、このスライドです。

学校行事や部活の大会が中止になった。塾や予備校に行けなくなった。親族に会えない。周囲の目が気になってしかたがない。このように今まで経験したことがないこと、当たり前だったことをそれなりの言葉で返してくれたと思いました。

問題は、この変化は、これからも続くのか、続かなければいけないのか、正しいもの、間違っているもの、そういうことをしっかり考えていかなければならないのでは？という投げかけに、ほとんどの学生が頷いてくれました。

もちろん、正解はないと思いますが、

- ・学校行事や部活の大会が中止
- ・塾や予備校に行けない
- ・管外の親族に会いに行けない
- ・感染症対策をしても、周囲の目が気になる

18

が、今回の経験から色んなものを学んでくれたら良いなと思っています。

これは、見慣れたポスターであります。

新型コロナウイルスの集団発生防止にご協力をお願いします

3つの「密」を避けましょう!

①換気の悪い **密閉空間** ②多数が集まる **密集場所** ③間近で会話や発声をする **密接場面**

新型コロナウイルスへの対策として、クラスター(集団)発生を防止することが重要です。日常生活の中で3つの「密」が集まらぬよう工夫しましょう。

3つの条件がそろう場所が **クラスター(集団)発生**のリスクが高い!

※3つの条件のほか、共同で使う物品には消毒などを行ってください。

新型コロナウイルス感染症と共生していくための **新しい生活様式**

いつでも欠かせない5つの取り組み

「3密を避ける」3つの工夫

感染しない・感染を広げない、大切な人を守る思いやりの日常生活

帯広市

19

このポスターを見せながら学生さんたちに言ったのは、今までは、どうやって人を集めようか、どうやって人と人との距離を縮めていこうか、人が集まったり、繋がったり、協力したり、協働することの中で価値が生まれてきたのではないかと。でも、今見てもらっているこのポスターは、それをやるなと書いてあるが、みんなどう思う?こんな風に投げかけ、必要なことは伝わったと思います。

リアルの世界では、熱量が伝わります。でも、リモートの世界では、熱が中々伝わりにくい。ですから、この二つのバランスをどう取っていくのか、今日、こうやって皆様にお集まりいただきましたが、リモートでやるのと、ここで久しぶりだねと言って、色々な感覚を感じていただくのも、これも捨てがたいというより、捨てられないものと思っています。

人が集まることで何が生まれるのか、そのためには、どんな感染症対策を取っていかなければならないのか、しっかり考える必要があると思います。

「334件（昨年1月～6月）」

334件、これは昨年1月から6月までの間に、私が外部の方とお会いした件数です。



今年は大きく減りまして230件、大体3割方、減ったということです。その分、楽をしたろうと言われるかもしれませんが、コロナ対応のような庁内打ち合わせが圧倒的に増えましたので、そちらの方で時間はしっかり使わせてもらいました。

先程、大臣と一緒に食事をしたと話しましたが、私と秋元市長は少し遅れて入りました。先ほどご紹介した札幌の経済界の

重鎮たちは、何と言ったかという「お久しぶり」と言われました。僕にだと思いましたが、それは秋元市長に言った言葉でした。彼は、札幌にいますので、どういうこと？と聞いたら、彼らも数か月ぶりに会ったと言っていました。それくらい、経済活動や行政活動など、普段一緒に行っているものが、それぞれの枠の中から出られなくなっていることを改めて感じ、これは大変なことだなと思いました。

「共感」

この言葉も学生たちに投げかけた言葉です。



今、色々な本が出て、私も読んでいますが、8割方の識者が、これからのキーワードは「共感」だ。「共感力だ。」と言っており、私もそうだなと思います。

思いやりや優しさ、想像力、そういうものが共感力を構成すると思います。

自分がパニックになっていても相手がどう思うかということを考えたら、今回のコロナでもありましたが、出て行けとか、帰って来るな

とかを言わない思いやりがこれから重要だと思っています。

学生たちには、僕は今市長をやっているけれど、共感力の強いまちづくりをしたい。共感力の強い組織を作っていきたい。どう思うと投げかけましたが、彼らにも通じたかなと思っています。

「十勝の強いところは、どこだ？」と聞いたことについての回答です。

- ・食、自然、地域とのつながりが良い
- ・地元の食材を使った食品やスイーツがおいしい
- ・人が優しく、穏やか
- ・面白い活動をしている人が多い

22

人が優しく穏やかというのが入っていました。これは嬉しかったです。それから面白い活動をしている人が多い。これは彼らから見ても背中に見える若い世代の人たちに、きっと面白い活動をしている人がいるのだと思います。十勝の良さが、この書いてくれたことに表れていると思いました。

「あおあお ひろびろ いきいき 未来を信じる帯広」

これは、第7期帯広市総合計画で、将来のまちの姿として、策定したものです。

「あおあお」、これは空や緑、土の香りです。

「ひろびろ」は、大平原、ゆとりです。

「いきいき」は、明るさ、生き甲斐。

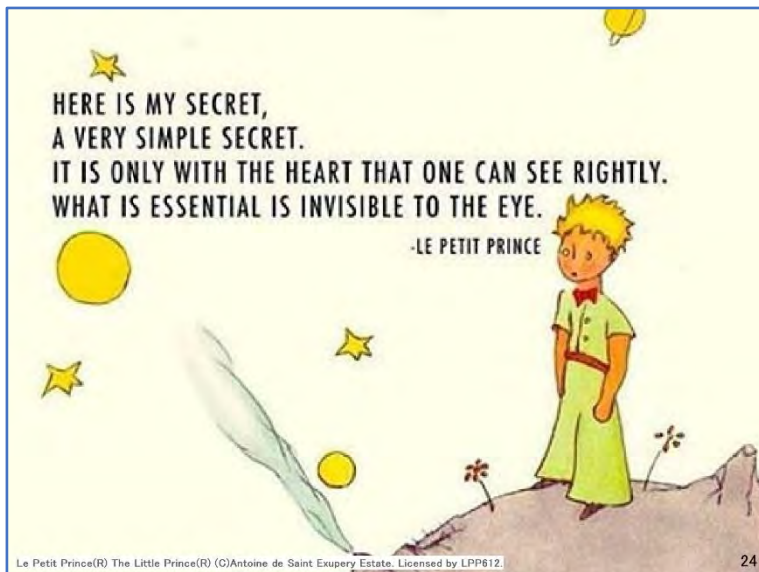
そして「未来を信じる帯広」は、十勝・帯広で先人たちが築いてきた歴史、文化を大切にして、明るい未来を信じて前向きに挑戦したり、行動する、そういう人たちがたくさんいるまち。そういうまちを創りたい。そういう想いがこの言葉にあります。



今回のコロナ禍の中でも、この言葉は、1ミリも色褪せないと思っています。ただ、コロナを経験したことで、変えるべきものと、変えてはいけないもの、これをしっかり考える機会を我々は持っていないかとは思いました。

23

これが星の王子様の英語版の本のコピーです。



先ほど言ったことがここに書いてあります。大切なものは目に見えないと書いてあるのですが、実はその前に一言書いてあります。「心で見なければ見えない。」という言葉も入っています。心の目でしっかり見えるようになりたいね。これも学生達は読んでくれました。

感動や想像力は、これからもっと大切になってくると思います。

この中に ESSENTIAL (エッセンシャル) という単語があります。多分、これを大切と訳したのだと思います。

今、エッセンシャルワーカーという言葉がテレビなどで耳にするとと思いますが、生きていく上で、我々が普段生活する上で欠かせない職業に携わっていただいている人たち、これをエッセンシャルワーカーと言いますが、改めて普段意識はしていなかったのだけど、そういう人たち、そういう仕事に対する感謝について、みんなで見直さなければならぬ、そういうタイミングなのかなと思います。

ここから先の2枚のスライドは、皆様の椅子の上に置いてあったものです。

広報おびひろ 令和2年8月号 市長コラム「 続・新常態 」から	広報おびひろ 令和2年7月号 市長コラム「 新常態 」から
<ul style="list-style-type: none">・これまでの常識や仕組みなど従来の枠組みを一度取り払って考え、物事の本質を見つめ直すプロセスは、より豊かな社会を目指すための好機・ファンの人たちの視点に注目してみる。これまでの枠組みを外した新たな視点を、まちづくりに取り入れることも大切・大都市圏にはない、様々なゆとりが感じられるこの土地で、人生設計が立てられるような仕事が増えれば、ここ十勝・帯広は、人生の豊かさを享受し、生きる場の選択肢として大きなアドバンテージを持つてくる	<ul style="list-style-type: none">・人々の価値観や行動が大きく変容していく中で、命の大切さや健康でおいしいものが食べられることなど、「日常」での安全安心な暮らしに勝るものがない・十勝・帯広は、コロナ後の時代にあっても、食や農業といった強みを生かすことで、大都市とは異なる存在感を発揮していける・誰もが利己的で利率的になりやすい非常時には、誠実な判断と行動を積み重ねていくことが大切

私は、毎月、帯広市の広報誌にコラムを書いています。毎月書くというのは、悲鳴をあげてはいけませんが大変です。

その中でお手元の資料で線を引いてあるところだけ、スライドにしましたが、ぜひ、目を通していただきたいと思います。

因みに、このコラムは、来月(10月号)で100号になります。良く書いてきたなと思いますが、皆さんに励まされながら続けてきました。これからも市長である間は、しっかりと書いていきたいです。

最後に、「おまけ」です。



それなりに夜の時間がありました。

この半年、市長になってから、これだけ夜の宴席がなかった期間はなかったので、多くの本を読みました。その中で、決して押しつけではありませんが、コロナの後、世の中はどうなっていくのかとか、今、何が起きているのか、ということで、読んで、なるほどと思った厳選の三冊です。

出版社や著者の宣伝をするわけではありませんが、これらの

本は、面白かったです。もし、ご関心があれば、読んでいただければと思います。

最後に、私、これからも、ここ十勝・帯広でスクラムを組んで、この十勝が北海道をリードし、十勝があって良かった、十勝はさすがだ。そういう存在感を感じていただけるまちづくりを、コロナの最中も、コロナが終わった後も続けていきたいと考えています。

引き続き、皆様のご支援をお願いして、今日の話が終わらせていただきます。

ご清聴ありがとうございました。

※この文書は、2020年9月2日に開催した「きっとね！米沢のりひさまちづくり報告会」における市長講演について、その要旨を米沢のりひさ連合援会でまとめたものです。